

今あるもの、ムダにしない 世界に誇れる図書館を



生まれ変わる、旧ひこね燦ぱれす

平成3年に開館し、ひこね燦ぱれすとして親しまれてきた勤労者総合福祉センター。令和4年12月にオープンしたプロシードアリーナ HIKONE に機能を引き継ぐとして、閉館後に取り壊す予定でした。

しかし、和田市長は「まだまだ使える建物をムダにすべきではない。有効活用の方法を模索したい」と考え、市民の皆さんからの賛同も得た上で各種検

討を進めました。その結果、図書館へのリノベーションの実現が見えてきました。

このリノベーションに当たって設計を手掛けることになったのが、世界で活躍される建築家、坂 茂（ばんしげる）さんです。

☎ 市立図書館 ☎ 22-0649 ☎ 26-0300

世界で活躍する建築家

坂 茂さんは、東京とニューヨーク、パリに事務所を構え世界中で活躍する建築家です。建築界のノーベル賞とも言われるプリツカー賞を受賞し、国内外での災害支援・難民支援活動でも知られています。



ばんしげる
坂 茂さん
株式会社坂茂建築設計 代表
NPO 法人 ボランティア・アーキテツ・ネットワーク 代表
芝浦工業大学 特別 招 聘教授

プロフィール

1957	東京生まれ
1985	坂茂建築設計設立
2001～08	慶応義塾大学環境情報学部教授
2014	プリツカー賞 受賞
2015～23	慶応義塾大学環境情報学部教授
2017	紫綬褒章 受賞
2023～	芝浦工業大学 特別招聘教授

登録

一級建築士
ニューヨーク州、ケンタッキー州登録建築家

建築家には、被災地でもできることがある

大規模な災害が発生すると、避難所でプライバシーが守られない生活を余儀なくされる場合があります。坂さんが代表を務めるボランティア・アーキテツ・ネットワークでは、紙を材料とした部材で作る間仕切りシステムを開発してこれらを提供しています（下の写真）。また、トルコやモロッコでの地震の際の仮設住宅建設や、ウクライナでの木造病院の設計など、世界中で被災地支援を行っています。



▲従来の避難所



▲紙の間仕切りを使用した避難所

紙の間仕切りシステムとは

ラップの巻芯としても使われるような紙管をフレームとして用い、布を掛けただけの間仕切りシステム。材料も調達しやすく、組み立てや拡張も簡単であることから、避難所での支援に適しています。